

広報

No.1274

はつかいち 9

September 2021

特集

重要伝統的建造物群保存地区に選定

この町並みとその心を未来につなぐ

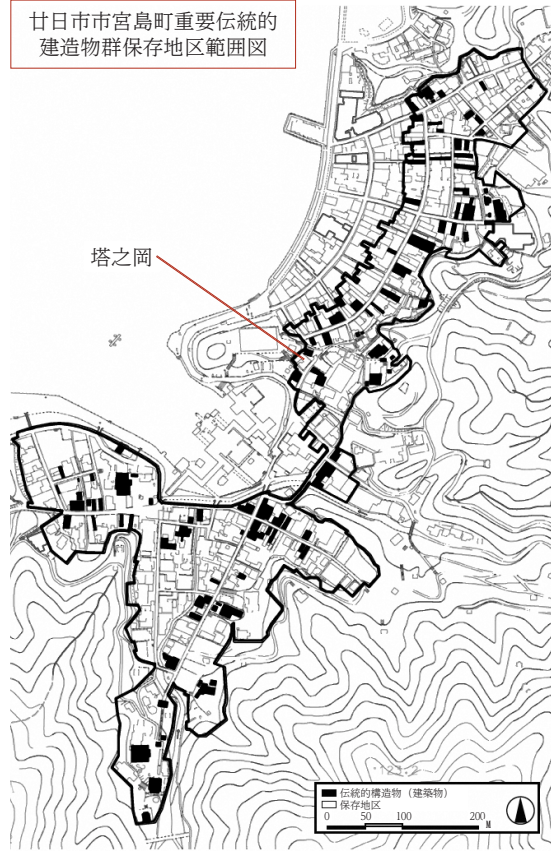
甘日市市

ちようどいい、あつめた。

はつかいち

島での暮らしや心を伝える 宮島の町並みを紐解いていきます

廿日市市宮島町重要伝統的建造物群保存地区範囲図



町の成り立ち

昔、宮島に人は住んでおらず、厳島神社の祭祀の時にだけ神官たちが島に渡って来ていました。その後、厳島神社の南西に寺社が造られ、神官たちが暮らし始めました。鎌倉時代終期になると瀬戸内海航路が発達し、寄港地として厳島神社の北東側に港町ができていきます。この頃になると厳島神社の参詣者も増え、門前町として発展していきました。

そんな歴史を今も伝える門前町は、厳島神社近くの塔之岡を境として「西町」と「東町」で構成されます。

「西町」は神社の南西側に位置し、神官や上級社家を中心に町が造られました。大聖院から二本の通りが海に向けて伸び、山側には大きな屋敷地の石垣や門塀が並びます。西町より少し遅れて成立した「東町」は神社の北東側に位置し、山側から段階的に埋め立てられ町が造られました。海岸線に沿うよ

町並みを構成する町家

う弓なりに伸びる通りに沿って町家が建ち並んでいます。

宮島の町並みは町家が多くを占め、その町家は間口が狭く、奥行きが長いのが特徴です。中は奥まで貫く「通り土間」と呼ばれる通路があり、通路に沿ってミセ・オウエ・ザシキと呼ばれる部屋が並びます。中でもオウエは、土間と一体となった吹き抜け空間で、神棚が設けてあります。

引き継がれる宮島の心

宮島の発展は常に、厳島神社と共にありました。島に伝わるさまざまな伝統文化にも根底には信仰心が見えてきます。

宮島の町並みは、そこに暮らす人々の営みによって形づくられてきたものです。その魅力的な町並みからは人々の暮らしが垣間見えると同時に、その息づかいまでが聞こえてきます。



廿日市市長
松本 太郎

このたび宮島の町並みが重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことは、光栄なことと思っています。

宮島は、千年以上の長い時間をかけさまざまな文化を取り込み、この島ならではの文化や歴史を築き上げてきました。また、太古から変わることのない島の自然は、島を慈しむ人々の努力によって今日まで守られ、そのままの姿で残されています。

今回の選定は、長年にわたり、宮島

の原点を守り続けてきたことが実を結んだものと思っています。宮島の皆さんがふるさとに誇りを持ち、この原点を受け継いでこられたことに、心から敬意を表します。私たち市民の宝である宮島の町並みは、いま日本の宝となりました。この素晴らしい宝を未来に伝えていくことは、私たちの責務です。世界に誇る宮島を市民とともに守り伝えるまちづくりをこれからも進めていきます。

重要伝統的建造物群保存地区に選定

この町並みとその心を未来につなぐ

問い合わせ 都市計画課 ☎ 9183

藤の棚公園に続く道（中江町）



昭和40年代

このたび、厳島神社の周囲に形成された門前町としての宮島の町並みが、わが国にとって特に価値が高いと認められ、文化財保護法に基づく「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）」に選定されました。先人たちが大切に守り継いできた町並みは、宮島に暮らす人々の営みと共に形づくられてきました。今回は厳島神社門前町の町並みとそこの暮らしにスポットを当てます。



現在

未来を見据え、町並みを保全していく

町並みや建物を守り、地域の歴史や文化を伝える

今回、建築史家である奈良女子大学の藤田教授に専門的視点からお話を聞きました。



東町の町家のある風景

建物の魅力

―建物から人の顔が見える―

私は愛媛県の大山祇神社おやまつみのある大三島おみの出身で、小学生の頃から秋の奉納祭では氏子として踊り、獅子舞を奉納していました。これは宮島の人が管絃祭に出るのと似ています。子ども時代に地域の行事に触れていたため、地域の歴史は自分にとってごく身近なものでした。大学で建築を学び、一度ゼネコンに就職しましたが、幼い頃の地元で

の体験や大学時代に学んだ経験から、歴史を含めて建物の持つ意味を深く知ることが大切だと思い、再び大学院に戻り建築史を学びました。

建物は人間の精神に影響を受け、歴史に沿って変化します。なぜなら人間の心の性質として、世代ごとに独自性が生まれていくからです。実際、30年ごとに建築の様式は見事に変わっています。小さな神社や道ばたの建物、大きな寺も時代とともに同じように変化するところがあり、時代のはやりが現れます。そして、これは一部の建物だけで起



西町の特徴的な石垣

こるのではなく、地域全体で変化が起こります。建物は人間の性質と常に密接に結びついているといえます。

そのため、建物を見るときには、建物そのものを見るのではなく、建物の造りを見て、造った人や住んでいた人を見ます。建物は人や暮らしを見るつもりでみるのです。建物を見て、人の顔や気持ちがみえてくると、建築の魅力にはまります。建築の向こうに人がみえた時、初めて建築文化が分かり、建築文化の面白さが分かるのです。

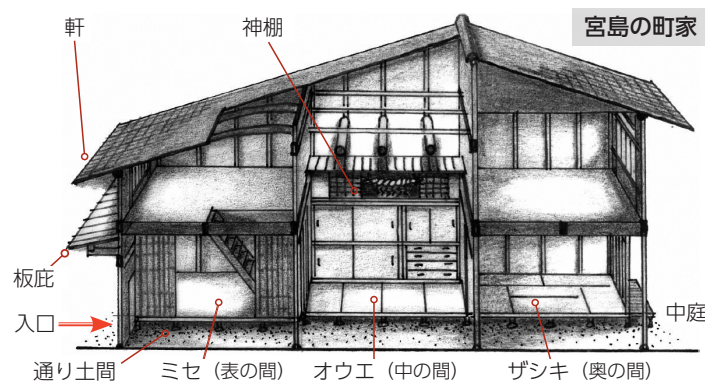
町並みを残すということは、その地の暮らしや人々の気持ちに触れる機会を残すということ

奈良女子大学 都市建築史・建築芸術分野

藤田 盟児 教授

Profile

建築史家であり工学博士。県内では本市を含め福山市、竹原市、呉市の重要伝統的建造物群保存地区など、多くの町並み保存に関わり、文化庁文化審議会第二専門調査会委員なども務める。



宮島の町家

なぜ町並みを残すのか

―町並みを残すことは地域の歴史や文化を残すこと―

管絃祭などの伝統行事や厳島神社などの文化財を残すのはもちろん大切です。そして、同じくらい、周りの門前町を残すことも大切です。門前町の町並みや建物が残っていれば過去の人々の生活や気持ちに触れることができます。宮島の町並みは先人の暮らしや信仰の心を今も

宮島の町並みの特徴、評価

◆外から見た造り

よく伝えています。古い建物をなぜ残すのか。それは、人の思いが込められた形ある物を残しておかないと、言葉だけでは過去にあったことが体感的に伝わらなくなるからです。形あるものがなくなると、単なる言葉の世界になって実感が消えていきます。現地でその町を見て、実感して、初めて言葉の世界がより深く自分の中に入り込んでくるのです。

宮島の町家は1階も2階も壁が道路ギリギリまで出ている、1階と2階の間に板の庇ひさしが付いているのが特徴的です。豊臣秀吉が朝鮮出兵をしていた当時、外国からの視察団に対して町をより立派に見せるため2階建てにするよう命じたのですが、簡単には2階にできないから2階建てに見えるように庇をつけたことが起源とされており、その時の影響が宮島にはまだ残っているのではないのでしょうか。

◆中から見た造り

宮島の町家は縦に3部屋（もしくは2部屋）が並び、きれいに分割されています。その中でもオウエと呼ばれる神棚が置かれた部屋はとても特徴的です。この部屋は神棚の上に部屋を作らず、2階まで吹き抜けとなっており、とても信仰の心を大切にしていることを感じるすることができます。

◆文化財としての評価

国の審議会でも宮島は高い評価で、保存が待ち望まれていました。厳島神社の保全だけでなく、神社を支える周囲の町並みを保全することで欠けていたピースがようやくそろったという感じですね。これほどの文化財がそろった町は他にはありません。ぜひ市と住民とが連携して素晴らしいまちづくりに取り組んでいただければと思います。

宮島で学び、育ってきた 2人が宮島への思いを 話してくれました

「時代は変わっても、古い心は残っている」

おばあちゃんと家で宮島のことを話して、昔の町並みは残っているけど安全のために電柱が減るなど、古い歴史を残しながらも町が進化していることを知りました。宮島の自慢は昔の町並みが残っていて、建物以外も伝統芸能やミヤジマトンボなど宮島ならではのものがたくさんあることです。これから、もっと宮島の町並みを知ってもらって、行事も受け継がれてほしいです。そして、今の宮島がずっと続くといいなと思います。



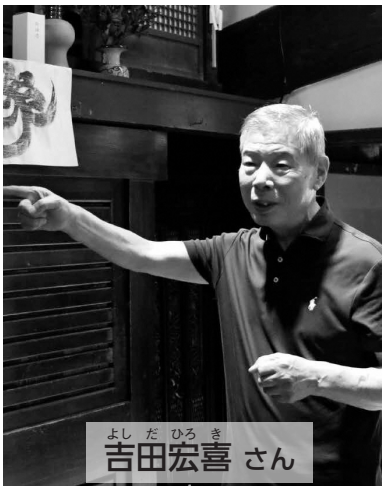
宮島学園 6年生
菊地結衣 さん

5年生
木村汐里 さん

「宮島に昔の建物が今も残っているのは特別なこと」

宮島の人はいつも声をかけてくれて、みんな優しいです。小さい頃は少し都会への憧れもあったけど、今はこの自然豊かで温かい宮島にずっといたいと思っています。お父さんに厳島図会を見せてもらうことがありました。江戸時代の絵なのに、今も残っている建物が描いてあり驚きました。昔の建物が今も残っている宮島の町は特別なんだなと感じました。

8月に80歳を迎えた吉田宏喜さん。ご夫婦で住んでいる自宅は江戸中期の建物といわれています。先祖代々大切に家を守ってきた吉田さんにお話を聞きました。



吉田宏喜 さん

「祖父の代から畳屋をしていました。昔は家の前の通りが舗装されておらず、小さい頃はそこで、ビー玉やコマ回しをして遊んでいました。私が宮島小学校（現宮島学園）に通っていた頃は1学年が3クラスもあり、多くの子どもがいました。親同士も仲が良かったので、よく友だちの家に行って遊んでいましたね。オウエがある家も多く、特別に意識することはなかったように思います。信教に関

「**疲れて帰ってきたときに、オウエで大の字で寝転ぶときが安らぎであり、代えがたい至福の時です**」

わらず、宮島は神社やお寺が周りにあるのが自然な光景でした。私も子どもの頃からオウエの梁の上や神棚を掃除していましたし、信仰は暮らしの一部でした。そういう意味でも宮島の人はいざ行事ごとを大切にしている、この地区では氏神祭も地域でやっています。父親の代で畳屋を閉じて、その後、家に家を改修しました。でも、外観やオウエ、ザシキなどはそのまま残して、大切に管理しています。宮島の町並みが見直されて注目を集めるようになったのは最近のことです。もう少し早ければもっと町並みが残っていたのにと惜しい気持ちもあります。小さい子どもや高齢の人でもゆっくり歩いてこの町並みを楽しめるようになってほしいですね」。



宮島で生まれ育ち、一度島外に出て戻ってきた渡辺茂雄さん。そして、結婚を機に宮島に住むことになった妻の由起子さん。違った視点で宮島の町並みへの思いを聞きました。

島から出て初めて分かる 宮島のすごさ

茂雄さん「小さいときから神社や寺は身近にあり、遊び場であり、学びの場でした。住んでいるときは田舎の島という感覚でしたが、上京して出身地を話すとき皆が知っていることに驚きました。外に出て初めて住んでいた宮島のすごさを知りましたね。たまに、地元（宮島）に戻ると空き地や駐車場が増え、町並みの変化

です。今回、重伝建地区に選定され、この町並みが残っていくことをうれしく思います。初めて宮島を訪れた人が、いきなり町並みに目を配ることは難しいかもしれませんが、観光客や近郊の人にも宮島の町並みを見てほしいですね」。

まるで映画の世界

由起子さん「私は、海外に住んでいたこともあり、少し外国の人の感覚に近いのかもしれませんが、初めて宮島に来たときは目の前の風景が夢か幻か困惑するほど感動しました。まるで美しい映画の世界みたいだなと感じました。ここで育った人は、日本の昔ながらの良さに触れた素晴らしい感性を持っているんだろうなと思います」。

時代を超え思い出のある家を大切にしたい

由起子さん「最初はなぜ古いものを残すのかと思うこともありましたが、暮らしていくうちに、宮島の人を守ってきた家やふるさとを大切に思う気持ちが残り、残していく意味が

に戸惑い、寂しさを感じることもありました。宮島に戻ってからは、不便なことも多いですが、自然豊かで歴史あるこの町がふるさとであることに誇りを感じるようになりました。とはいえ、町並みのことを意識したのは、仕事や子育てが少し落ち着き、先を見据えて周りが見えるようになってきた40代くらいから



宮島四季の宿わたなべ
わたなべしげお 渡辺茂雄 さん、 ゆき 由起子 さん

子どもたちにも将来同じ気持ちを感じてほしい

分かってきました。宮島に住んでいる人は、町に対して熱い思いを持っています。家を見ると、そこに住んでいる人が見えてきて温かさを感じます。これが宮島の魅力だと思います。時代を超え、多くの人が住んできた思い出のある家が好き。だから大切にしたい、という思いがあります。それこそ重伝建の保存の意味だと感じています」。

茂雄さん「宮島での暮らしは地域のひととの距離が近く、つながりが深いです。心配なことがあっても地域の人が手助けしてくれます。子どもたちも小さい頃から地域の文化に触れる機会が多く、幼稚園や学校でも地域と関わり、宮島のことを勉強しています。本当に地域に育てられているなと感じます。子どもたちはそこまで意識はしていないかもしれませんが、将来的に宮島を誇りに思ってくれればうれしいですね」。

まちなみ通信配信中



バックナンバーや今後のまちなみ通信は市ホームページやFacebookで見ることができます。

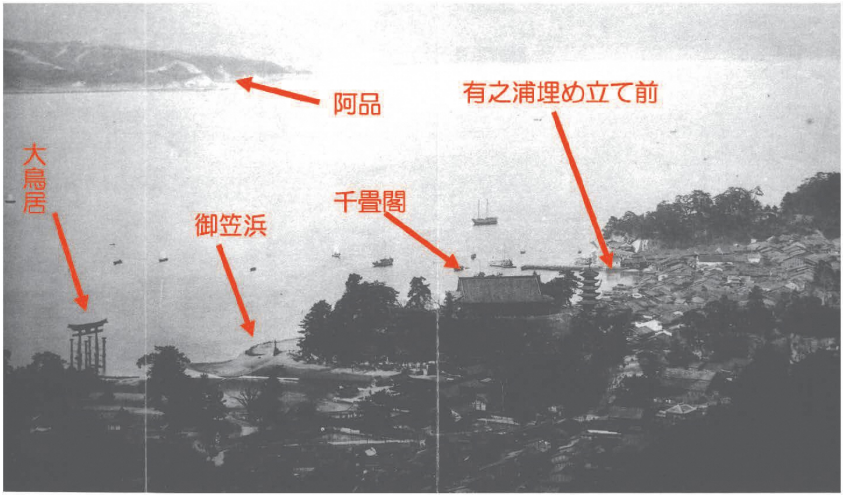


町並みホームページ



宮島町家 Facebook (フェイスブック)

今昔写真を見比べて



上の写真は、大正時代から昭和初期頃の様子です。島内の海岸線が、現在に較べて一回り小さいのがわかります。御笠浜は防波護岸がなく、砂浜の状態です。対岸の阿品はほとんど山のような状況で、家もビルも見えません。海に浮かぶ船は、小さな物が多く、中央のやや大きな船には、帆かけのポールが2本立っているように見えます。

下の写真は、現在の様子です。町並み、屋並みは昔も今も大きな変化はないように思われます。(上の写真が見えにくくてすみません) それに対して対岸には多くのマンションが建ち並び開発が進んでおり、大きな変化が見られます。島内の変化とすれば、海岸線がきれいになり、観光地として整備が進んでいます。海上には定期航路の JR フェリーと松大汽船のフェリーが行き交っています。

「特別史跡・特別名勝 厳島」って何？

文化財保護法の文化財の一つで、島内全域が指定されています。特別史跡は、遺跡として社寺や町家などが古くからあったこと、特別名勝は、海に立つ大鳥居・厳島神社、背後の弥山原始林など優れた景観であることが指定された理由です。全国でも特別が付く史跡名勝は他に、京都市の金閣寺・銀閣寺の境内や、東京都の旧浜離宮庭園などがあります。

島の中で工事や仮設物を設置する計画がある時は、事前に生涯学習課へご相談ください。

連絡先：生涯学習課文化財グループ
TEL (0829) 30-9205 FAX (0829) 32-5163

まちなみ通信 No.28 (令和3年9月1日) 発行
廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

現状変更に関してご相談ください

伝建の制度が始まって2年あまりが経過しました。地区内の皆さんには、まちづくりにご協力をいただき感謝しています。

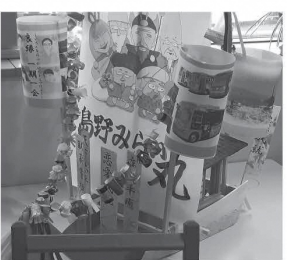
宮島島内は、小さな工事や仮設物でも現状変更行為許可申請が必要になります。日常の維持管理に関する行為は申請不要ですが、事前に都市計画課へご相談いただければ、手続きの有無を含め、手戻り無くスムーズに事業ができるようお手伝いします。事前の連絡をお願いします。

連絡先：都市計画課歴史まちなみ推進係
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

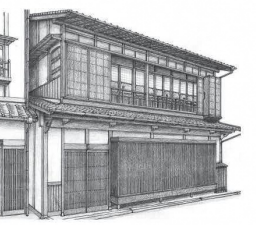
まちなみ通信を知っていますか。宮島の町並みの魅力を紹介するため、毎月発行し、宮島地域で配布しています。今回は番外編としてまちなみ通信広報特別版をお届けします。

令和3年9月1日号
島野伝太郎一家の
まちなみ通信 No.28
～重伝建選定記念はつかいち広報特別版～

建吉：今年も暑い夏が続くのお。
みらい：おじいちゃん、こんにちは。今年のたのも船はどんなのを作るの。
うみ：みらいちゃん、いらっしやい。たのも船、できているわよ。みらいちゃんが健やかに育つようにって、おじいちゃん今年も頑張ったわよ。
建吉：ええのができたでえ。見てみるか。
みらい：見せて、見せて。わあ、すご〜い、七福神が描いてある。瓦も乗ってるよ。障子も付いてる。
建吉：今年は重伝建選定のお祝いを入れてみたんじゃ。昔は五穀豊穡じゃったが、今は、家内安全やいろんな願いも入れるようになったけえのお。
うみ：そうね。明治時代の初めまで島内では農耕が



禁止されていたわね。対岸の人達に頼っていたから、農作物への感謝の行事として五穀豊穡だったわね。
建吉：対岸の大野や廿日市には世話になったわい。
マイク：みらいちゃん、こんにちは。たのも船すごいでしょ。今年は私も手伝いました。瓦の所は私が作ったんですよ。軒裏の腕木や持ち送りを再現したかったのですが、あきらめました。
みらい：マイクならできるよ。来年頑張って。
マイク：はい、頑張ります。伝建の保存事業で本物の勉強できていますから、たのも船で古民家の模型づくり頑張ります。
伝太郎・もみじ：こんにちは、みらい来てます？



うみ：来てるわよ。たのも船を見てるわ。
伝太郎：みらい、父さんと伝建の建物見ながら散歩するんじゃないのか。今日は、内部を見せてもらえるんだぞ。

登場人物自己紹介 (通信の令和元年5月号に掲載)

島野伝太郎：岐阜県育ち。海の無いところで育ったので、宮島の島の魅力に引かれ、宮島に移住。今はサラリーマンだけど、将来は日本文化体験の店がやりたいと思ってます。

もみじ：宮島育ち。移住してきた伝太郎と出会い結婚した。宮島島内の幼稚園に勤務してます。

みらい：伝太郎の娘だよ。おじいちゃんが大好きで、古いお家が好き。宮島学園2年生で〜す。

島居建吉：もみじの父じゃ。宮島生まれの大工で、腕に自信がある。古い町家が大好きで、重伝建になって張り切っとる。

うみ：建吉の妻です。宮島踊りを守ってます。町家通りで雑貨・みやげ物店を経営してますから、皆さんごひいきにね。

マイク：僕ハ日本文化ヲ勉強ニ留学シテ、宮島ノ魅力ニ引カレ、移住シタ。今ハうみサンノ店手伝ツテル。時々建吉サンノ仕事手伝ウヨ。

か。今日は、内部を見せてもらえるんだぞ。
みらい：あつ、そうだった。一緒に散歩する約束してた。じゃあ、行ってきま〜す。
もみじ：最近、伝太郎さんも町家の魅力にはまっちゃって。暇さえあれば町家の散策に出かけているわ。
建吉：みらいは本気で大工になるかもしれないわい。楽しみじゃ。宮島の町家の魅力は軒裏の文化で奥が深いんじゃ。伝太郎君は、だんだんそこがわかってきたんじやろうて。腕木があつて、持ち送りがこうで……。
もみじ：長くなりそう。私も散歩に行こう。
【次回は、通常発行の予定です】

